

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[32]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[2]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[45]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[2]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[36]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[0]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	大柄な傷病者を当事者Bとともに布担架で寝室から玄関まで搬送。(足部側担当)	体力を消耗した。
経過2	当事者B	大柄な傷病者を当事者Aとともに布担架で寝室から玄関まで搬送。(頭部側担当)	体力を消耗した。
経過3	当事者A. B. C	階段部分は、当事者Cを加え3名で搬送した。	
経過4	当事者C	感染防止服が手摺に引っかかり、搬送停止状態になった。	体力を消耗した。 転倒、転落危険あり。
経過5	当事者A. C	準備したストレッチャーに傷病者を乗せる際、腕力の低下で挙上できなかった。	転倒、転落危険あり。
経過6	当事者B	A、Cの状況から家人の協力を得て足側を挙上し、ストレッチャーに収容した。	
経過7	当事者A. B. C	3名で協力し、車内収容した。	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

指揮者が適切に指示した。他隊(員)から適切な注意を受けた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：隊員の注意力不足及び体力の限界。

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

現場説明図

